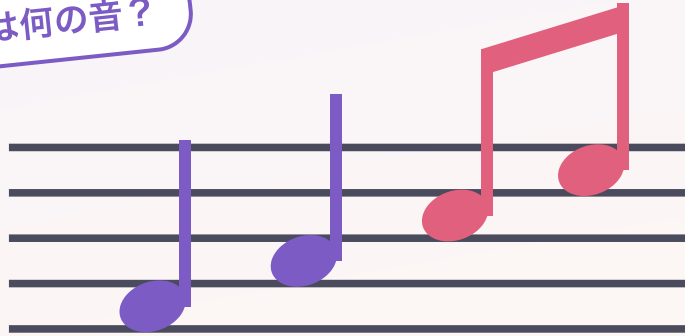


これは何の音？



ドはどこかな？

楽譜の読み方入門

五線の上の音符を、少しずつ読んでみよう



この教材の使い方

1

声と体で感じる

音楽は、歌ったり手をたたいたりするほど身につきます。気になったところは、何度でも声に出してみましょう。

2

本物の音を聴く

この教材に出てくる曲や楽器は、音源や動画でも聴いてみましょう。耳で知ると、理解がぐっと深まります。

3

「やってみよう」は手と体で

答えは30ページにあります。正解がひとつではない問題もあります。自分の感じ方を大切にしましょう。



Ken (ケン)

音楽が好きな中学生。ギターを始めたばかり。



Emma (エマ)

カナダから来た留学生。ピアノが得意。

もくじ

楽譜の入り口	3～4
音符の位置	5～8
読んでみる	9～12
小節と実践	13～16
読み方をきわめる	17～19
練習しよう	20～24
ふり返り	25～30

楽譜ってなに？・何が便利？

楽譜は、音楽を目で見える形にした地図です。

楽譜とは、音の高さや長さを、記号で書き表したものです。

楽譜があると、同じ曲を何度でも、だれとでも、正確に演奏することができます。



ポイント

- 楽譜は、音楽を「見る」ための道具です。
- 楽譜があれば、遠くはなれた人にも、同じメロディを正確に伝えられます。
- 耳だけでは覚えにくい長い曲も、楽譜があれば練習しやすくなります。

やってみよう

1. 楽譜を見たことがある場所を、思い出せるだけ書こう。

書いて覚えよう

音符を書くための、5本の横線

五線からはみ出た音のための、短い線

- 五線は、下から1本目、2本目と数えます。
- 五線に入りきれない高い音・低い音は、加線を足して表します。

1. 紙に5本の横線を、同じ間かくで引いてみよう。

音符の上下の位置が、音の高さを表します。

低い 中くらい 高い

5

音符は、線の上にも、線の間にも書かれます。

- 音符は、五線の**線の上**にのっていることも、**線と線の間**にあることもあります。
- 1つ上の場所に動くごとに、音は1段階高くなります。

1. 身近な楽譜（教科書などでもよい）を見て、線の上の音符と、線の間音符をそれぞれ1つ見つけよう。

ト音記号

楽譜の最初によく出てくる記号を知ろう。

ト音記号

treble clef / G clef

高いほうの音を書くときに、五線の最初を書く記号

ポイント

- ト音記号は、下から2本目の線をぐるっと囲むように書かれます。
- その線の音が「ソ（ト）」であることを示しているので、ト音記号とよばれます。
- リコーダーやピアノの右手など、高めの音を書くときによく使われます。

やってみよう

- ト音記号を、なぞって書いてみよう。（本の余白などに）

書いて覚えよう

五線の中の「ド」の場所を見つけよう。

A musical staff with five horizontal lines. A purple oval note head is positioned on the second line from the bottom. A vertical purple stem extends upwards from the note head to the third line. Below the staff, a purple '7' with a subscript '6' is centered under the note.

ポイント

- ## やってみよう

- 書いて覚えよう

ドを起点に、上へ読んでみよう。

ド レ ミ ファ ソ

ポイント

- やってみよう

- 書いて覚えよう

ソから、さらに上を読んでみよう。

ソ ラ シ 高いド

ポイント

- やってみよう

- 書いて覚えよう

音符の頭が白いか黒いか、棒があるかないかで、長さが変わります。

1. 上の3つの音符のうち、いちばん長くのばす音符はどれ？

書いて覚えよう

- 楽譜は、左から右へ、順番に読み進めます。
- 1段読み終わったら、次の段の左はしにもどります。
- 指でなぞりながら読むと、迷いにくくなります。

1. 身近な楽譜を1つ用意し、指で左から右へなぞってみよう。

小節の区切り

楽譜は、小節ごとに区切られています。

小節

measure / bar

拍のまとまりを区切った単位

小節線

barline

小節と小節を区切る、たて線

ポイント

- 小節線で区切られた1つ分を、1小節とよびます。
- 区切りがあるので、今どこを演奏しているかがわかりやすくなります。

やってみよう

1. 身近な楽譜を見て、小節線を3本見つけて指さしてみよう。

書いて覚えよう

楽譜を指でなぞる

指でなぞって、楽譜に慣れよう。

なぞってみよう



音符の頭を、左から順番に指でなぞってみましょう。

ポイント

- 指でなぞりながら読むと、読み飛ばしを防げます。
- なぞりながらドレミを声に出すと、より覚えやすくなります。

やってみよう

1. 上の楽譜を、指でなぞりながらドレミで読んでみよう。

書いて覚えよう

Diagram illustrating three types of points on a number line:

- タン**: A solid dot on the number line.
- タン**: An open circle on the number line.
- タン-**: A solid dot on the number line with a vertical line passing through it, indicating a ray or interval.

16

楽譜の読み方のコツ

楽譜を読むための、いくつかのコツを知ろう。

ポイント

- 「ド」の場所を目印にして、そこからの距離で読むと早くなります。
- 1つ1つ数えるより、形のパターンで覚えると読みやすくなります。
- 焦らず、少しずつ読める音符を増やしていきましょう。

やってみよう

1. 今日覚えたコツを、1つ書き出しておこう。

書いて覚えよう

短い曲の楽譜に挑戦してみよう。

18

20

実際にやってみよう・ペアやグループで練習しよう

1人でも、みんなでも楽譜読みを楽しもう。

A (楽譜を指さして) これは何の音？

B (答える) ド

A (別の場所を指さして) これは？

B (答える) _____

A (また別の場所を指さして) これは？

B (答える) _____

ポイント

- A が楽譜のどこかを指さし、B がドレミで答えるクイズです。
- 交代しながら出題すると、より楽しく練習できます。

ワンポイント 間違えても大丈夫。ドの位置から数え直すくせをつけると、正確さが上がります。

書いて覚えよう

よくあるつまずき・上達のコツ

つまずきは、上達のサインです。

つまずき

よくあること

ドの位置を忘れる

毎回さがすのに時間がかかる

線と間をまちがえる

1つずれて読んでしまう

コツ

こうしてみよう

ドに印をつける

目印を決めておく

指でなぞって数える

1つずつ確認する

ポイント

- 最初は時間がかかって当然です。くり返すほど速く読めるようになります。
- まちがえたら、あわてずドの位置から数え直しましょう。

やってみよう

- あなたが楽譜でつまずきやすいことは？ _____
- 上のコツから、1つえらんで試してみよう。

書いて覚えよう

用語をおさらい

この教材で出てきた言葉を確認しよう。

楽譜の基本

☐ 楽譜

音を記号で書き表したもの

☐ 五線

音符を書く5本の線

☐ 加線

五線からはみ出た音のための線

記号

☐ ト音記号

高めの音を表す記号

☐ 小節

拍のまとまりの単位

☐ 小節線

小節を区切る線

読み方

☐ 音符の位置

音の高さを表す

☐ 線の上・間

音符が置かれる場所

☐ 左から右へ

楽譜を読み進める向き

練習

☐ 指でなぞる

読み飛ばしを防ぐ方法

☐ ドの目印

そこから数えて読む

☐ 楽譜クイズ

読む力をためす練習

ワンポイント 覚えた言葉に✓をつけよう。楽譜が読めると、音楽の世界がぐっと広がります。

書いて覚えよう

● オ. 高めの音を表す記号

教科書の楽譜を1つ見つける

頭の中でDの位置を思い出す

ドレミファソラシドを声に出す

楽譜の音符を1つ指さして読む

短い楽譜をなぞりながら歌う

家族と楽譜クイズをする

- 1回5分でも、毎日続けることが読む力を育てます。
- できたところをほめながら、楽しく続けましょう。

発表してみよう・感想を書こう

読めるようになった楽譜を、人に見せてみよう。

読めた楽譜

読めた音の数

むずかしかったところ

見せたい人

Ken の例

読めた楽譜 教科書の短いメロディ／読めた音の数 5音／むずかしかったところ シと高いドの区別
／見せたい人 音楽の先生

感想を3文で書こう

① 楽譜を読んでみて、～と感じました。② とくに、～がむずかしかったです。③ 次は、～に挑戦してみたいです。

書いて覚えよう

もっと知りたい人へ・次のステップ

楽譜の世界は、まだまだ広がります。

もっと知りたい人へ

教科書で

いろいろな楽譜を試してみる

楽器で

楽譜を見ながらひいてみる

次のステップ

音符と休符

長さの種類をくわしく学ぶ

歌う

楽譜を見て歌う練習

へ音記号

低い音を表す記号

ポイント

- この教材の次は「音符と休符」。音の長さをもっとくわしく学びます。

書いて覚えよう

1. 楽譜とは、どんなものですか。 _____
2. いちばん読めるようになった音は？ _____
3. これから挑戦してみたいことは？ _____

楽譜ミッションカード

MISSION 1

ドからドまでを楽譜で読む

MISSION 2

楽譜を見ながら1曲手拍子する

MISSION 3

楽譜を見ながら1曲歌う

MISSION 4

楽譜クイズを家族に出す

できたミッションに✓をつけよう： ☐1 ☐2 ☐3 ☐4

書いて覚えよう

楽譜の読み方入門チャレンジ

教室の外でも、楽譜はすぐに楽しめます。

さがそう

身のまわりで**楽譜**を1つ見つける

読もう

見つけた楽譜の**ドの位置**をさがす

読もう

音符を**5つ**、ドレミで読んでみる

こたえ

L18-19 ①ソ ②ミ ③高いド

L26 五線→イ 加線→エ ト音記号→オ 小節→ウ 小節線→ア 2. ト音記号 / 3. 小節線

L33 (例) 楽譜は、五線の上の音符の位置で音の高さを表す、音楽の地図のようなもの。

書いて覚えよう

楽譜の読み方入門 (Season 1 | No.6)

発行：一般社団法人文化芸術支援協会

この教材の著作権は一般社団法人文化芸術支援協会に帰属します。個人の学習および家庭内での利用に限り、閲覧・保存・印刷ができます。

有料の講座・塾・研修での使用、販売・再配布、改変しての公開、生成AIへの入力などの商用利用は禁止しています。

くわしくは当協会ウェブサイトの「ウェブサイト利用規約」をご覧ください。